

# Handsome

発行人 鳥取県西部中小企業青年中央会 会長 阿部 信行 編集責任者 足立 聡 印刷所 東京印刷株



## 一年間を振り返って

会長 阿部 信行

最近よく「会長!ご苦労様、1年間あつという間だったでしょう」とねぎらいの言葉をいただきますが、決して「あつという間の1年間」ではありませんでした。

私の実質任期も残り1ヶ月足らずの今、今年度のハンサムを読み返すとき、いろいろなことが思い起こされます。

7月の総会において壇上で挨拶をしたとき、OBはじめ会員の耳目が私に集中して注がれているのがひしひしと伝わってきたことを、今思い出しても冷や汗がでます。今年度は「責任ある活動」=More Active!=を活動理念に掲げました。例会も担当委員会が工夫を凝らしていただきましたおかげで、外人あり、フォーラムあり、ディスカッションありで毎月例会日が楽しみでありました(壇上で挨拶をしなければいけないということを除いて)。その中でも強く印象に残っているのは、3月の衣笠祥雄氏の特別講演と4月のレクリエーション例会でした。衣笠氏の講演は役員担当例会とし、準備を進めました。当日はオープン例会で多くの市民の方々に聴講いただき当会を少しでも理解いただけたことと思います。また後日大リーグのリップケン選手が氏の連続出場記録を塗り替えた新聞記事を読んだとき、改めて懐かしく愚妻と、当日のことを話し合うことができました。4月の初のレクリエーション例会は、会員家族の皆様とも接することが出来、大変有意義な1日であり、楽しいひとときであったと思います。

委員会活動においては、1年間各々のテーマに一生懸命取り組み、それぞれ素晴らしい成果を上げていただき、委員長にとっても思い出深い1年ではなかったでしょうか。2月からのインターネットホームページ開設ワーキンググループの皆様には大変ご苦労をおかけいたしました。すばらしいホームページを開設でき各方面からも絶大な評価をいただき「西部青年中央会ここにあり」と大いにアピールできた事と思います。

地域ビジョン委員会の千人アンケートはこの地域の将来の活性化を探る手段として、合併問題に着手し、問題提起が行えたことは当会ならではの研究ではなかったでしょうか。高知への国内研修旅行、岐阜での全国大会、OBとの野球交流試合、同好会のゴルフコンペ、新入会員との新しい出会い、委員会への出席等々…思い起こされることの多くは楽しい思い出です。

反面どうしても忘れることの出来ない悲しいこともありました。若くしてなくなられた会員の奥様、またOBのご逝去は大変に残念であり、あらためて心よりご冥福をお祈りいたします。

滑走路が見えてきた今「本当にすばらしいフライトだったな」と振り返れます。

このようなチャンスを与えていただきました藤居直前会長、その任を支えていただいた4役、役員の方々、あたたかく見守っていただいた先輩諸氏、なにかとお世話になった事務局、そして最後に熱いご協力をいただいた会員一人一人に心よりの感謝を申し上げます。

この一年間本当にありがとうございました。

## 西部青年中央会ホームページ インターネット掲載開始!

今年2月から開始された『インターネットWG』によるホームページ制作は、5月末までに予定の作業を終了し、6月3日からインターネット上にホームページの掲載を開始しました。6月20日に全国のホームページサーチエンジンにも登録をし、今後各関係組織への案内とリンクを計画しています。会員の皆様方からのご意見・ご感想をお待ちしています。



URL: <http://www.sanmedia.or.jp/tsc/>

## 米子JC講演会レポート

# 「もったいない」から始めよう！

## もったいない運動推進キャンペーン

主催 米子青年会議所

講師 小島 あずさ氏

5月30日（木）米子てんまやホールにおいて米子青年会議所主催の講演会に出席し講演を拝聴させていただいた。

小島氏は「クリーンアップ全国事務局」代表として環境美化運動を推進され運動としてはゴミの収集作業とその実態調査を行い内閣総理大臣賞等を受賞されている。講演はフィルム映像を使い、人間の無責任な大量生産及び大量消費による地球環境の破壊と動植物の被害について語られ今後人間はどのようにすべきかを出席者と話し合った。講演内容は次のとおりで

“地球環境の破壊”化石資源の燃焼等による地球温暖化とそれによる異常気象。オゾン層の破壊による動植物への悪影響。森林伐採による自然環境の悪化。

“ゴミ問題”

無責任な投棄による自然環境の破壊と動植物の被害、大量に発生するゴミの処理の限界。プラスチック等の自然分解しにくい物質の環境破壊。

以上の問題を提起し、リサイクルの意義とゴミ発生を抑制する必要性及び小島氏の団体の活動について語られた。講演を聞き、問題の根の深さと問題解決の必要性及びその困難さを痛感させられた。



## 6月例会報告

去る6月17日、平安閣に於て6月例会が開催された。綱領唱和の後、阿部会長の挨拶。挨拶の中にも、会長という重責をやりとげられて、余裕がうかがえる。本当に御苦労様でした。次いで、夢みなと博市民会議会長に就任された藤居直前会長の「皆さんの力で夢みなと博を盛り上げて頂きたい」との挨拶。

更に、西部青年中央会のインターネットホームページ開設という事でワーキンググループの一員でもある門脇経営投資委員長より、ホームページの紹介がなされた。1週間で100件以上ものアクセスがあったという事でも皆さんの大いなる関心がうかがわれる。只今、約60社という事であるが、更に多くの会員企業の掲載を期待したい。

次いで、平成7年度委員会報告が我が広報委員会樋口委員長の司会のもと座談会方式で行われた。阿部会長の元、頑張ってこられた8委員会の各委員長が1年間の委員会活動について述べられたが、その中で、各委員長共、やはり出席について頭を悩まされた様だ。みんなが参加してくれるような例会、委員会、行事にするための苦労がうかがわれた。各委員長さん、1年間御苦労様でした。引き続き出席率アップに向け、ハッパをかけてやって下さい。最後に次年度9委員会の新委員長からの挨拶。各委員長共、次年度松本会長よ

り与えられたテーマを元に楽しい委員会活動をやっていきたいという抱負を述べられたが、緊張の中にも初々しさ(?)の見られる、やる気充分の新委員長らしい挨拶であった。次年度松本会長を盛りたて、1年間頑張ってください。



## 西部青年中央会野球部初戦飾れず OB・現役交流戦行う

6月9日（日）西部青年中央会野球部が発足して記念すべき第1戦を米子市民球場においてOBチームを迎えて行われた。当日はぐずついた梅雨空の下で心配されたが雨に濡れる事も無く、イチローもプレイした米子市民球場のグラウンドで新調したユニフォームに袖をおとした野球部会員のはつらつとしたプレイとOBチームの老練なプレイによる熱戦が展開された。試合は初回に主軸の連打により野球部が3点を先取したがOBチームの小西投手の好投に追加点が奪えず、逆にOBチームは3回

に1点、4回に2点を追加し5回時間切れのため結局3対3でOB・現役交流戦としては2年連続の引き分けとなった。

チーム名	1	2	3	4	5	計
OBチーム	0	0	1	2	0	3
野球部チーム	3	0	0	0	0	3

尚、野球部は第2戦として7月14日に強豪の米子信用金庫と対戦する予定。

# 7月度委員会報告

## 政治行政委員会

平成8年6月14日(金) 於:美さご 出席者/17名  
 内容/ 美さごにて委員会及打上げを行ないました。まず、役員会報告を行ない、すぐに打上げ式に移り、卒業生(倉敷氏、高下氏、木村(正)氏)3名を囲んで中央会に対する思いを御話していただき感銘を受けましたが、目前にある酒と女とH心を押さえきれずに感銘はそこそこにおいしい酒と卒業生のみな様とコンパニオンとの間に繰り広げられるゲームに目のやりばのない姿に少し羨ましく思い、楽しい一時がアツという間に過ぎて行きました。今回はコンパの女性(5名)に大変御世話になり、卒業生のみな様も大変満足されたそうで、これからはOBとして我々を御指導していただくよう御願いたします。

## 経営投資委員会

平成8年6月14日(金) 於:出雲路 出席者/16名  
 内容/ 年度の最終委員会にあたり、各委員からの1年の感想を発表した。阿部会長ほか委員9名で行ないました。優勝は波多野会員、ベスグロは阿部会長でした。

## 経済委員会

平成8年6月15日(土) 於:菊乃家 出席者/17名  
 内容/  
 ●経済委員会打上げゴルフコンペ(グリーンパーク大山G.C)阿部会長ほか委員9名で行ないました。優勝は波多野会員、ベスグロは阿部会長でした。場所を移して、  
 ●委員会の年間まとめ及び打上げ(菊乃家)をPM6:00より行ないました。阿部会長及び浜田委員長のあいさつのあと、今期で御卒業(予定?)の西山会員と島田会員(病欠)を囲み、卒業祝と委員会の打上げに会員みんなが盛り上がりました。  
 1年間経済委員会のみなさま御苦労様でした。(委員長より)

## 平広報委員会

平成8年6月6日(木) 於:米子食品会館 出席者/18名  
 内容/ 1) 6月例会の打合せ  
 2) 7月ハンサム打合せ  
 3) 打上げの打合せ

## 社会・文化委員会

平成8年6月15日(土) 於:美保関 なべや別館 出席者/13名  
 内容/ 打ち上げ及び卒業会員送別会  
 ガーデンバーベキューにて生ビール、海の幸を満喫。2次会(リド)で阿部会長合流。8名の宿泊で幕閉じる。

## 情報メディア委員会

平成8年6月21日(金) 於:皆生 海潮園 出席者/20名  
 内容/ 今回は1年間の打上げを行った。  
 当委員会が即実務に役立ち本当に勉強になった。会長、委員長の挨拶に続き、当委員会から卒業される堀尾委員より中央会生活を振り返って色々お話を頂戴した。お話の中で友情と馴れ合いの違い、親しさとは別のけじめの大切さのお話を載いた。他の色々な団体に対しても堂々と胸を張れる中央会にしていかなくてはならないと言われる堀尾委員に強烈な情熱を感じた。多少ほんわかムードで出席した私にとっては一本芯を通して載いた気がした。多少厳しいお話も頂戴したが、取って苦言を言ってくれた堀尾先輩の姿に中央会の素晴らしさを感じた。その後は華やかな宴へと会はすすんでゆきました。委員長、1年間お疲れさまでした。

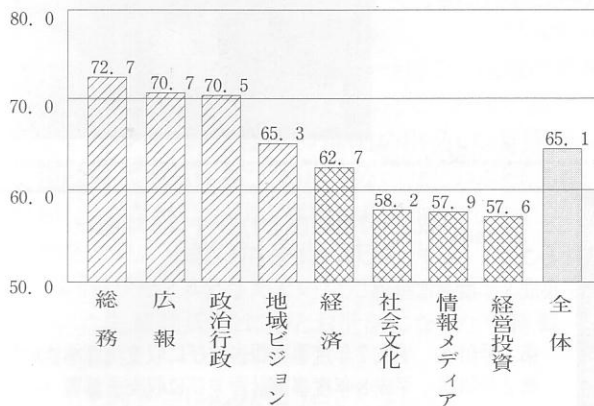
## 地域ビジョン委員会

平成8年6月10日(月) 於:ホールサムイン皆生 出席者/18名  
 内容/ 打上げ

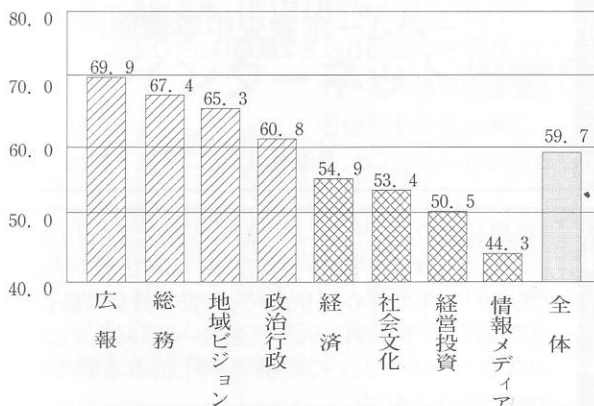
## 総務委員会

平成8年6月13日(木) 於:大連 出席者/19名  
 内容/  
 ①県青中総会の件②8年度新入会員承認の件③7年度総務委員会報告(竹中会員より)④7年度総務委員会総括  
 各自、1年間の委員会活動の感想を述べて閉会

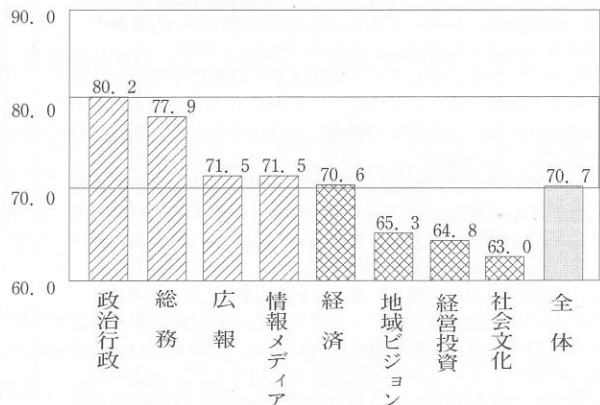
### 出席率ランキング 合計出席率



### 例会出席率



### 委員会出席率



### 平成7年度皆勤、精勤賞対象者名簿

#### 皆勤賞

(政治行政) 倉敷裕史、松田則一、高岡英明  
 (社会文化) 梅林広志  
 (経済) 浜田一哉  
 (広報) 樋口一夫、夏山裕一  
 (総務) 市位清明、戸野雅弘、高田孝志

#### 精勤賞

(政治行政) 柴谷政司、奥森隆夫、武海章  
 (社会文化) 安部利夫、北野実、松岡正高  
 (地域ビジョン) 長谷川義明、門脇浩二  
 (経済) 角田茂樹  
 (経営投資) 門脇直己、木村幸史、宮廻裕和、由島康平  
 (情報メディア) 田川廣美、水康徳  
 (広報) 里道義郎、畑中経之、足立達朗、後藤秀之  
 (総務) 大森茂樹、浜徳正、平野忠司

# 突撃同行レポート

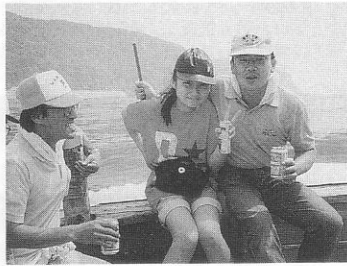
## 〈船釣り編〉

今回は船釣りだぞー!!

6月22日広報委員会の打ち上げということで「船釣り」にチャレンジして見た。皆第1集合場所「ながえや」前に集合時間より早く、なんと全員がいた。いいだしっぺの私でさえ30分前に来たのに、それより早い……!!皆の意気込みが伝わって来る。大半がはじめてと合って、竿、リールのチェックをすませ、関まで車にのり合わせて行く。午前10:00美保関港より出港。一つは灘釣(近場…はじめての人用10名)もう一船は沖釣り。[近日の雨がうその様に、この日は晴れの良き日] イザ出発……と合った

### 〈灘釣の部〉

灘釣チームは、子供2名含む10名。期待と不安の初体験が開始され、一様の心配は舟酔いであったが、ポイントに着くと、海は風状態、早速皆必死でエサつけをし、竿を入れた。最初に釣れたのは、なんと上野会員の娘さん、数分で生きのいいのがあった。これに負けじと会員諸氏も次々とベラ、カサゴ、アジ、メバルと釣りあげ、当初の舟酔いの心配はどこへ



やら、皆気分良く、ポイントを移りながら、挑戦はつづいた。最初灘釣の予定がだんだん沖へ、途中、大半横になって休憩している間も、もくもくと釣りに熱中しているのは樋口委員長のみ。沖の御前あたりでタイを釣り上げた時は非常に感激し、終了時間がきても、まだ釣りにいそしみたかったとの談。灘釣チームは皆(若干1名除く)、初めてにしては、成果があり一様に満足気であったが、またやろうという声はなかった。ちなみにこれを書いている私は、釣り体験は10分位で終わってしまった。あとは逃げ場のないいらだたしさとの戦いで、時計とのにらめっこでした。

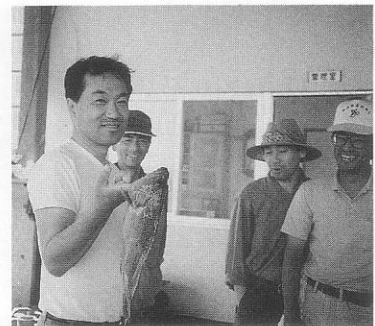
### 〈沖釣の部〉

「釣りのポイントまで約1時間位だよ」と船頭さんが言われ、夕べはあまり寝てない…不安である!!ポイント11:00到着。船がゆくりポイントをかざし出し釣りOKの「ブー」のサイレン。いざ釣り人は、前の方に高井、畑中、足立達、後の方に山中、夏山、後藤の6人。5分を過ぎるがだれの竿にも当りらしきものが無い?又「ブー」のサイレン。これは竿を上げよのサイレン。ポイントを替える。ちなみに船から海底までやく80m~90m釣れない時の「ブー」はかなりつらいものがある。2つ目のポイントOKの「ブー」、夏山の竿に何やらしなりが合った。「おい、あげにゃーア。来とるがーア」という船頭さんの声に、夏山氏リールを巻く。上がって来たのは20cm位のレンコダイ。夏山氏顔をにまりとしながら「なかなかおもしろいなア」の一言。前の方でもヒット。そのあと私にもヒット……!!?ポイントを替えながら昼が過ぎたので、弁当タイム。それぞれ船に酔う前に酒に酔っている人もいたが、夏山氏も山中氏も弁当に向かったので私もと思ったが下を向けない、なぜか…。それは、船に酔って来たからだ。それ以後は船の後尾にへばりついてゲロゲロ〜。「もう帰るか〜」の声が長く〜思えた」。1時半頃無線でもう一方の船の状況聞いた。10人中7人がダウン。釣っている人はわずか3人とのこと。思わずだれか?と思った。午後3時「竿を上げてー」の声。やっとな帰れる。でも波はそんなに高くない。港に付くまで船の上でゲ〜、ゲ〜ねていた。さすがに港に着き陸に上がると、さっきの船酔いはいつこへ?

一方灘釣の船は先に帰港していたので、船に酔った人はどんなだろうと心配していたが、皆びんびんしているのわからなかった。

釣荷の大漁賞は武田氏の約30数ひき  
灘釣(最後までつづいていた人)大物賞は里道氏のアカミズ40~50cm級と夏山氏の30cm級のレンコダイでした。

追伸 ホント陸に上がるとだれが船よしいたのかさっぱりわからないほど元気でしたネ!!一番酔った人が、写真では一番元気そうに写っているではないか。



## 聞いてごしない Part 9

京都の病院長が、末期癌の患者に筋弛緩剤を投与、死に至らしめた。事の是非は解らないが、自分は間違った事をしていないと言う自信に溢れた良い目をしておられたように思う。しかし、それは反面とても恐ろしい事のように思える。私は死を目前に苦しむだけの家族を見て、その者を自ら死に至らしめるような事が出来るだろうか?と考えると、とても出来そうに無い。では彼は何故出来たのだろうか?ひとつに彼は医師としてこの患者は絶対に助からないと言う自信があったのだろう。それでは一体何パーセントの確率で助かる見込みが無いのか尋ねたら、おそらく99%と答えるのではないかと思う。では、残りの1%は?と言えば、それは奇跡または例外と呼ばれるものではないだろうか、そしてそれは医師から絶望的な宣告を受けた患者の家族が最後に願う物ではなからうか?もう一つある。この医師はおそらく、もし自分がこの患者であったなら、ただ悪戯に死期を引き延ばすだけの治療などしてほしくないと思ったのだろう。ただ、これも言わせて頂ければ、医師と言う職業に就き数多くの他人の死に職業として携わっている人間の感覚と一般人との死と言う物に対する感覚がはたして近いと言えるのだろうか、言い換えれば一医師が患者と何処まで精神を同化できるか、と言う問題である。まだある。患者がもし20代の青年であっても同じ事をしたであろうか、もし自分の息子に医師が勝手にこんな事をしたら私は絶対にゆるさないだろうと思う。最後に宗教観の問題がある。この京都の医師は生から死への移行がよりスムーズに行える助けをした。と語った。おそらく何等かの宗教観に支えられた言葉であろう。安楽死を考える時最後の問題として宗教観による死の概念の違いと言う問題がある。私が20才の頃彼女を送って帰る途中目の前で子犬が車にはねられるのを見た。子犬は宙を舞って道路の真ん中で空を掻いている。歩道まで運んでもう助からないと思った。当時の私は彼女の前で自分が優しいふりをするのが厭でその子犬の頭をそばにあった石でたたき割ろうと手を振り上げた。だが、体が固まったまま動かない。なにやらわめく彼女の手を掴んで強引に送り届けた後、直ぐにその歩道に戻ったら子犬は冷たくなっていた。死体を抱いて一人帰る途中声を上げて泣いた。「自分に酔ってる。」と思うとよけい涙が止まらない。「多感な青年だったんだ。今では下半身の一部のみ感じやすい中年になってしまったけど。」今、家庭から年寄りが消え、ペットが飼えなくなり、死はどんどん遠くの世界に行ってしまった。アニメの主人公は何度も何度も生き返る。そんな中で簡単な事で「死んでも良い。」と言う人が増えたように思う。しかし、本当にそうなのか?自分だったら死んだ方がましだと言う感覚で他のものの命を考えて良いのか?もちろん、京都の医師がそうであったと言っているのではない。彼は本当に勇気ある立派な医師なのであろう。ただ、彼のあの行為が20才の頃、子犬の前に石を振り上げた私のような自己陶酔的な気分でない事だけは、絶対であってほしい。

by めちんこ

平成8年度通常総会案内

とき 平成8年7月15日(月) 午後6時30分~

ところ ホテルサンルート米子

平成8年度通常総会

議案

第1号議案 平成7年度事業報告並びに収支決算承認の件

第2号議案 平成8年度事業計画並びに収支予算書(案)承認の件

7月役員会案内

7月定例役員会が7月1日(月)、米子国際ホテルに於いて開催された。当日の主な議題は、次の通り。

①総会提出議案の件

②新入会員承認の件

※尚細詳については、各委員長までご照会下さい。

編集後記

1年間私共のハンサムにおつきあいいただきありがとうございます。次回より畑中委員長率いる新広報が担当いたします。1年の締めくくりとして、広報委員会は船釣りに出発しました。素人がほとんどで、船酔いのラッシュでしたが、初体験というものは、いつでもドキドキし忘れる事のないものだと感じました。